

30匹以上の鮫と泳いだ2015年の夏

数年前テニアンで、沖に向かって泳ぎ始めた私の後方から、大きな亀が私の真下に泳ぎ出てきた。亀の泳ぎは平泳ぎだ。

私を誘うように、誘うように私の前をゆっくり泳いで行く。

透明度の高い海の中、海底がどんどん遠くなり、「亀さん！私をどこへ連れて行こうとしているのですか？」亀さんに聞いてみた。

どこへ連れて行こうとしているかは大体分かっているのだが、亀さんにはそれには答えることもなく、やがてさらに深い海のなかに消えて行った。

私は我に帰って、そこから岸に向かって帰って来た。

砂浜に戻って箱のような物がないか辺りを確かめて見たが、ないようだった。

茅ヶ崎海岸の沖合で、30匹以上のサメと共に、1時間にわたりレースさながら約2キロのコースを共に泳いだ人はさすがにいないと思う。貴重なサメとの競泳となった1日である。

2015年8月14日金曜日、朝8時40分～9時40分のことである。

サメの種類は、シュモクザメである。

シュモクザメの英名はHammerhead Shark（ハンマーヘッド・シャーク）。

頭がまるで金槌のように見えるということでその名前が付けられています。

和名のシュモクザメ（撞木鮫）も、頭部が楽器を叩く撞木の形状に似ているところからきています。

シュモクザメは肉食である。今回はボラを食べようと南の海からやってきたようだと報道されている。真偽のほどは分からない。

シュモクザメは、サメの中では珍しく大きな群れを作って行動するときがあり、数百匹単位の群れで回遊している時もある。そんな写真をネットで見ていると圧巻である。こんなに多くのサメが襲ってきたら、私もこれまでと観念しそうになる。

ネットで紹介されている動画を見ていると、海面を覆い尽くすほどのシュモクザメの大軍が向かってくる。海底から見上げれば敵機襲来を思わせる迫力である。よく言えば感動。見方を変えれば恐怖である。

4～5日前から台風が接近、昨日はどしゃぶり、海の透明度はあまりよくない。浜の近くでは波は高いが、200～300メートルほど沖合に出れば、崩れる波はない。泳ぐのになんか気にならない。しかるにシュモクザメの大軍の姿を泳ぎながら確認できなかったのが残念でならない。

シュモクザメにとっても、私と一緒に泳ぐということは貴重な体験となったに違いない。

一応サメに聞いてみなければ分からないが、間違いないことと思う。多分そうだろう。そう願いたい。私を食べないでほしい。

そう願うばかりだ。明日も泳ぐつもりだから。

今年の暑さは、去年の猛暑を超える激しい猛暑日の連続。海水温がどんどん上昇し、ここ茅ヶ崎海岸が珊瑚礁の海に変わる日もそんなに遠くないだろう。

日本のカリフォルニア改め日本のハワイになるか？これ以上温度の上昇が続けばいよいよ地球も危うい。

すっかりサメの出現で有名になった茅ヶ崎“烏帽子岩”は我が家から1500m沖合にある岩礁である。

サメ騒動より1ヶ月前の7月11日土曜日

「茅ヶ崎烏帽子岩オープンウォータースイミング大会」が行われた。

私は2.5キロの部にエントリーしている。

7月11日の大会に向け、4月から毎朝1時間のスイミングを欠かさない。

さすがに4月の水温は低い。ウエットスーツを直ちに注文し泳いでいた。ウエットスーツを馬鹿にしていた私だったが、着てみるとこんなに素晴らしいものは無いと驚かされる。

4月の朝一番だというのに、まるで寒くない。泳ぐのに何の抵抗感も無いばかりか、むしろ泳ぎ易く快適。トライアスロン仕様ということもあるのだろう。もう手放せない。一日中着ていても「あったかいんだから～」なのである。

自分の身体の一部のようだ。

パジャマにしてもいいかもしれない。笑われてもいいから。

烏帽子とは平安時代、貴族達がかぶっていたアレである。帽子の先端が後に折れ曲がって、おしゃれな感じを出している帽子である。そんな形をした岩が茅ヶ崎の名所となった。烏帽子岩である。

烏帽子の形をした大きめの岩を中心に岩礁が構成されている。我が家の前と

ということもあり、何度か泳いで島まで行ったこともある。

のどかな時代であったが、昨今は多くの漁船が行き交い、水上スクーターがスピードを上げ疾走。ヨットやウインドサーフィンなどが行き交い、一気に危険な水域に変身した。

今ではこの海域、サメより怖い存在で溢れている。

ラチエン通りは、1キロ先から真っすぐに烏帽子岩を見ることができる通りであり、そのまま海に出る道である。

文豪「開高健」の住んでいた家はラチエン通りに面している。我が家はラチエン通りを挟んで開高健の家と対峙していた。

海岸通り134号線からラチエン通りに入る入口が、サザンの桑田佳祐の歌に出てくる「パシフィックホテル茅ヶ崎」である。22歳の時、私はこのホテルで結婚披露宴をしている。今はマンションに変わった。

文豪「開高健」と話しを交わしたことは無いが、お隣でもあり顔を見ることもあった。

ラチエン通りに立ちはだかる開高健は、ゴツゴツの岩の様でもあり、いかつい身体で道路に立っていた。通りすがりの私を見ていたことがあった。

問題はこのラチエン通りにあるそば屋「江戸久」の席のことである。わたしがいつも座っていた席が最近、開高健お気に入りの席と但し書きがしてあるではないか。

開高健が亡くなり、その家は「開高健記念館」に変わった。その一連の動きであろう。

悔しいのでその椅子の下の方に、小さく「三枝樹お気に入りの席」と書きしたため、糊で貼っておいたが気づいてくれたらどうか？

持ち合わせの糊が無いので、「カツ丼合わせざるそば」の飯ひと粒を活用させて頂いたが、いいお米なのか付きが良い。

話がそれていってしまったが、「茅ヶ崎烏帽子岩オープンウォータースイム2015」の大会の結果も報告しなければいけない。

4月からウエットスーツを着込み、朝は6時前に起床。1時間のスイムを楽しんでいた。スイミング後、朝食を作り、仕事を開始そんな日々が続いた。その流れがあって、8月にはシュモクザメとの競泳が実現したのである。

7月11日「烏帽子岩オープンウォータースイム大会」の朝には万全の態勢が整っていた。後は優勝の2文字が見え隠れするのみである。

気になることといえば、肘の痛みがひどくなり右手で急須が持てない程度である。

今回の競技ルールではウエットスーツの着用が禁じられていたが、肘のサポートの為にウエットスーツを着用するか悩みながら会場に向かった。

台風が接近してうねりがやや高くなっていたが、前日海に出て、傾向と対策問題をこなし、本番が待ちどろしいばかりである。

いよいよ朝を迎え、海に向かう。遠くから会場の白いテントがまぶしい。

しかし、近づくにしたいが何か盛り上がり欠ける静けさがある。

もう、スタートをしてしまったのだろうか？

又、私は遅刻をしてしまったか？白いテントの周りには白いユニホームを着た若い女性達がいっぱい見える。受付近くにスタッフはいるが選手らしき姿がない。

本日のレース中止

中止？おいおいやめてくれよ。いけるだろう。中止はないだろう。

波は高い。スタートを切るのがやや大変である。大勢が一斉スタートするオープンウォーター大会は静かな海でも死にものぐるい。大きな波が連続するスタートでは生きて行くのがやっとになるだろう。これはやっかいだ。

まず1回目の波を乗り越えて、続いてやってくる2回目の波を乗り越えれば先が見える。

しかし2回目の波の時には足がつかない深さで、スピードも乗っていない。一気に波に飲み込まれるだろう。しかし沖に向かうには、ここの踏ん張りが勝負を分ける一戦となる。波に吞まれれば最初からやり直し。

大波、小波を乗り越えれば後はいける。ここで中止はないだろう。

オープンウォーターというのは自然との戦いでもある。屋内プールではないのだ。荒れていてもなんとかいこうじゃないの。

こんなことで怖じけづいてどうする。と一応文句を言ってみる。

いつまでも困らせていても、すでに中止指令がでている。がっかりしながら、9千円のペットボトルを一本頂いて家に帰る。無念。

このまま決行すれば10人に一人はリタイヤするか、死を招く。

私が主催者なら中止の決定を即座にする局面である。波はさらにこれからさらに強くなる予報である。

死んでも文句は言いません。の誓約書を書いているも怖い物は怖い。怖いと思った人は決して戦ってはいけない。本当に死を招くから。

過去に7回の大会にエントリーしているが、そのうち3回が中止になっている。オープンウォータースイム大会というのは、それほどにリスクが高い競技なのだ。

気象条件が良くて地獄。悪くて地獄。そこにあって楽しみを見いだす競技のようだ。あまりすんなり終わっても拍子抜けと言ったところかもしれない。

大会が中止になったからと言って、全てが無駄な事とはならないのだ。

そこまでの努力や、モチベーションの高め方に大きな意味がある。気持ちの充実感。精神の高揚、いろいろな面で与えられたものは大きい。

大会の8割の楽しみをこの時点ですでに頂いているのだ。

中止になったからと言って全てを失った訳ではない。

さらに、おつりが8月になってサメとの遭遇につながってくるのだから、この地球に住むのも、それほど悪くない。

わざわざ地球のあちこちに出かけなくても、我が家の前に熱帯からのお客様達がわざわざおこしいただけるとは恐れ入ります。といったところか。

昔、名古屋は暑い。蒸し暑い！と叫んでいたが、最近はもっと暑い場所が全国に広がり、暑い自慢の町が大声で叫んでいる。

この気候変動に。更なるひねりが加わればジュラシックパークのような恐竜世界がわが町、茅ヶ崎にやってくる日も近いかもしれない。

恐竜達が大勢やって来たら名前を覚えるのが大変。恐竜達の名前にステゴサウルス、ティラノサウルス、スピノサウルス-----サウルスという名が多いのはなぜ？もう少し分かりやすい名前にしてくれないと、出会った時に間違っ呼んで恥ずかしい思いをしそうで心配だ。いったい誰が名付けたのだろう。

一方、ゴリラ、キドラ、ガメラ。ラがつくだけで迫力のある一群もある。カメラ-----これは違うか。

身体が大きいだけで怖さが倍加するものもある。身近な存在で、象さんはデカイ。キリン君はのっぼだ。

昔、私はキリンを飼っていたことがあるのだが。

そのことを話すと、必ずキリンは飼うことができるのですか？飼育方法が難しくないですか？という質問をする人がいる。

「それはまあ～難しいです。馴ればそれほど大層なことはないのだが。私にできるのだから誰にでもできますよ。」とはいつてみるものの、難しいかもしれない。

「キリンには何を食べさせているのですか？」という質問も多い。

好き嫌いはあるけれど、とりあえずいろんな物を出してみる。嫌いな物は食べないから心配はありません。

かわいいので抱っこしてあげようと首の辺りを捕まえようとするが、ゆっくり歩いているのに、捕まりそうになるとス～と早くなり、通り過ぎる。

この間合いの取り方が絶妙なんだよ。

そうかと思うと意外に寂しがりやのところもあって、近づいて鼻をフッ近づけてきたりする。かわいいよな。

キリンという名前がすばらしい。

レモンスカッシュのようなスカットした感じがたまらない。

いつもキリン君！キリン君おいで！と叫んでいた。

キリン君！と呼ぶと、遠くから「ニャ～」と答えるところはたまらない。

さて、泳ぎに出かけますか。

一緒に泳ぎますか？

三枝樹